

はじめに

このたび、千葉県文書館と宮内公文書館が所蔵する公文書・古文書をひもといて「皇室がふれた千葉」、「千葉がふれた皇室」という双方のまなざしから明治期から昭和期までの千葉と皇室の歴史を紹介いたします。

明治期以降、各地への行幸が頻繁に行われるようになり、現在の千葉県域にも明治六年（一八七三）の習志野原（当時大和田原、現・船橋・習志野・八千代市域）を最初としてたびたび行幸がありました。大正天皇・昭和天皇も皇太子時代を含め、県内各地に何度か行幸・行啓になっていきます。行幸・行啓を通じて、明治天皇・大正天皇・昭和天皇は千葉の風景・文化・歴史などに「ふれ」、千葉の人びとは皇室に「ふれ」ることになりました。

行幸のような直接的な出来事だけではなく、千葉から献上される名産品、県知事からの報告書類などからも皇室は千葉に「ふれ」ています。一方で、千葉の人びとは県内で行われる皇室関連の行事、習志野原に置かれていた御猟場（皇室専用の狩猟場）や三里塚にあった下総御料牧場といった皇室ゆかりの施設、行幸・行啓の記念碑、勅使（天皇の御使）の差遣などから間接的に皇室に「ふれ」ています。

千葉県・宮内庁に伝来した歴史的文書の面白さ・重要性が伝わり、共催展の開催が貴重な資料を未来へ継承するための一助となれば幸いです。最後に、今回の共催展を開催するにあたり、貴重な資料や情報をお寄せいただいた皆さまに感謝申し上げます。

凡例 一 本図録は、平成二十七年（二〇一五）九月二十五日（金）から十二月十九日（土）まで開催する、千葉県文書館・宮内庁宮内公文書館

共催展「皇室がふれた千葉×千葉がふれた皇室」の簡易図録です。

一 本簡易図録の掲載順は必ずしも展示順と一致しません。

一 この簡易図録は、展示解説図録をもとに千葉県文書館県史・古文書課副主幹倉内郁子が作成したものです。

第一章 近代黎明期の千葉と明治天皇

● 将軍から天皇へ

江戸時代の房総は幕府領、旗本領、譜代藩領が大半を占めていました。幕末維新の動乱期を経て、政権は慶応四年（一八六八）の戊辰戦争以降、新政府へ完全に移ることになります。しかし、旧幕府を支持する勢力も根強く残り、房総の鎮定は容易ではありませんでした。慶応四年、上総安房監察兼知県事に任命され、明治四年（一八七一）まで房総の鎮定にあたった柴山典の資料から千葉県の近代黎明期を紹介します。



1 柴山典写真

明治／千葉県文書館蔵
柴山家に伝来した晩年の肖像写真です。柴山典は文政五年（一八二二）久留米藩に生まれ、明治十七年（一八八四）に没しました。

2 辞令 宮谷県知事

明治四年（一八七一）
千葉県文書館蔵

宮谷県は明治二年に上総安房の旧幕府領・旧旗本領を中心とした地域に置かれた新政府の直轄県です

柴山典は同年宮谷県の権知事に、明治四年には県知事に任命されました。上部二か所に御璽が押されています。

（御璽：天皇の印章）

